

# 淳城西小の先生方に聞く！（第2回）

授業改革推進チームの研修として、オンラインで淳城西小学校の先生方と交流し、淳城西小の実際  
の取組を学んでいます。今号では、第2回の概要を紹介します。

第2回テーマ：「小学校算数科における授業改善と人材育成」  
ゲスト：平塚 定 教頭先生（元教育専門監：算数科）

〔算数科で児童に意識させたいこと〕

つながる 広がる算数

前の勉強と 同じところはどこか  
違うところはどこか

数や形を 変えると どうなるだろうか  
場面を →同じことがいえる？  
→「例えば～だったら」

## ①教育専門監としての人材育成

3年間、算数科の教育専門監として3校を兼務し、4年生から6年生を担当しTTで授業を行った。TIとして授業を見せたり、一つの単元を担当と交互に授業を行ったりして、教材研究の支援をしながら、担任と一緒に授業改善に取り組んできた。



「算数の達人 平塚教頭先生」  
淳城西小学校3年生作

## ②算数の授業改善（主な内容）

### ○教材研究

教科書のつくりや読み方を知っておくと、短時間で授業の展開を工夫することができる。教科書に使われているマークの意味を知っているだけでも教材研究は変わってくる。吹き出しには**数学的見方・考え方を可視化した**大事なことが書かれているので、発問に役立てたり、授業のまとめにつなげたりすることで学習を深めることができる。

### ○公式

児童は公式を学習すると、公式を作るまでの過程は忘れてしまい、公式の使い方だけが残ってしまうことが多い。公式の意味を大切に、それを理解した上で公式を使って問題を解くようにさせたい。「速さ」、「道のり」、「時間」については、3つの数量関係が理解できれば、公式を覚えていなくても問題は解ける。速さに関する3つの式のうち、扱う式を2つとしている教科書もある。

### 【参考資料】

速さの公式を覚えようとする児童は多く見られるが、「速さと道のり、時間」の関数的な関係まで理解しようとしている児童は少ないのが実態である。（中略）3つの公式をすべて掲載しておく、3つともすべて覚えさせるような指導が行われることが少なくない。覚える公式を少なくするためには、「道のり＝速さ×時間」の1つだけでもよいと思われる。その際、式の見方を指導し、あとの2つの公式を導けるようにしたり関数的な関係に着目したりできるようにしたりしておきたい。

教科書の改善・充実に関する研究報告書（算数）  
平成18・19年度文部科学省委嘱事業「教科書の改善・充実に関する研究事業」

### ○「1（いち）」を意識するとつながりが見えてくる

長さや重さ、かさ、広さ、角度などの測定の学習は、「もとにするもののいくつ分（倍）」で考えることができる。1年生からの学習が、**発展的・統合的な見方を通して**つながっていく。そのことを教師が知っているだけでも、授業は変わってくるのではないか。

## 研修に参加した先生方からの質問

Q：学習内容の定着について、どのような工夫をしていますか。



授業の中で、技能を重視した習熟も行うが、単元の導入など、数学的な考え方を中心にした授業においても、数や形、場面を変えるとどうなるかなど、**発展的に考察すること**を児童に意識させて定着を図っていた。

家庭学習においても、ドリルをさせるだけでなく、「授業でしたことを場面を変えて説明できるかやっごらん。」と問い掛ける方法が考えられる。

## ～難波指導教諭のつぶやき～

今回のオンライン研修では、教材研究のヒントをたくさん教えていただきました。“教科書に使われているマークの意味を知る”や“各学年の学習内容がどうつながっていくかを知る”ことは、算数科以外の教材研究にも汎用できることだと感じました。

